

勝持寺旧境内

- 京都第二外環状道路新設事業に伴う京都市域(花の寺地区)における
埋蔵文化財発掘調査 現地説明会資料 -

所在地 京都市西京区大原野南春日町地内
調査面積 約3,300 m²
調査機関 財団法人京都市埋蔵文化財研究所(ホームページ <http://www.kyoto-arc.or.jp/>)

はじめに この調査は、国土交通省近畿地方整備局京都国道事務所の委託を受け当研究所が実施している、京都第二外環状線新設事業に伴う発掘調査です。これまでに、3-2区(2010年8月調査) 2区1区 3-1a区の順で調査を進め(図1参照)、調査は継続中です。

勝持寺の歴史は古代まで遡るようで、寺伝によれば、延暦十年(791)には桓武天皇の勅を受けて最澄が再建したとされます。勝持寺所蔵の絵図によれば、中世には49を数える多くの子院が建ち並んでいた様子がうかがわれますが、応仁の乱によってこれらの子院は焼失したようです。絵図からは、発掘調査対象地内にも幾つかの子院があったことが想定できます。

この場所は調査前は竹林でした。調査を進めたところ、急角度で立ち上がる石垣や石塁を検出することができました。調査対象地は、もともと北西から南東に延びる丘陵部に属していましたが、子院の造成に際しては、高い箇所を削り、低い箇所に盛土する大規模な土木工事によって整備されたことが発掘調査でわかってきました。また、1区や2区東部では、鎌倉時代の遺構や遺物がみつきり、この時期に丘陵部の開発が始まったことを示しています。

検出した遺構 石垣・石塁・造成平坦面および掘込平坦面では、建物跡を示すと考えられる柱穴や土坑・溝などを検出しました。調査継続中の判断ですが、これらの遺構の年代は出土した遺物から、鎌倉時代(13世紀代)から室町時代後半(15世紀後半)に属すると考えています。

石垣 東西方向(南面)の石垣65と南北方向(東面)の石垣66を検出しました。石垣の平面形はL字形を呈し、長径0.2~0.7mの石を勾配を持たせて積み上げ、石垣裏面には長径0.1~0.5mの裏込めの礫を密に詰めています。石垣65は高さ約2.8m・延長約32m、石垣66は崩落しているものの、延長約28mにわたり検出しました。

石垣66の北端では、南北方向に石を並べ、東へ段状に下がる石列を検出しました。階段の可能性がります。この階段状石列の西側でも南北方向の石列を検出し、門などに関連する施設を示す石列の可能性がります。これら南北石列は、現存する勝持寺参道から大原野神社へ通じる東西方向の通路と一直線上に位置します。

造成平坦面 1区で検出した平坦面です。造成には2時期あります。鎌倉時代の頃の造成面は狭く、土坑112を1基検出しました。室町時代後半には、尾根を削り斜面に造成土を盛り造成面は広くなります。造成土の境界面からは、土器類が多量に出土しました。この平坦面は、絵図に記された「阿弥陀坊」跡に相当します。

石塁 石垣65・66の角から東側が石塁69です。基底部幅0.8m、残存高0.6~0.7m、延長約27mにわたり検出しました。石塁内部には礫を詰めています。東は調査区外へ延び、勝持寺の現参道まで連続すると考えられます。

地業 2区南半の西端で検出した南北方向を示す遺構が地業14です。土塀の基礎の可能性がります。絵図に記された「正行坊」跡または「本覚坊」跡と推定される地区を区画する施設と考えられます。

掘込み平坦面 石塁69の北側(落込70)と南側(段差10)で検出した人為的に掘り込んだ二つの平坦面です。落込70は検出面から約0.8m、段差10は検出面から約0.6mほど地山を掘り下げ平坦面を形成しています。

段差10の平坦面は、東方の勝持寺参道まで続くと考えられます。平坦面では柱穴・土坑・溝などを検出しました。段差10は絵図に記された「正行坊」跡または「松林院」跡と推定されます。

まとめ 発掘調査は継続中ですが、これまでの調査成果を基に検出遺構を位置づけます。一つは、勝持寺子院の変遷や縄張りの一端を明らかにできたことがあげられます。また、検出した遺構の年代は、出土遺物から鎌倉時代から室町時代に属すると考えています。検出遺構のうち、室町時代後半(15世紀後半)の石垣・石塁の検出例はほとんどなく、重要な調査成果といえます。また、石垣裏面に礫を密に詰め込む検出例は、銀閣寺でほぼ同時期の例が知られる程度で、石垣構築の技術系譜を考える上で貴重な考古資料と言えるでしょう。

このように、全国的に見ても調査例の少ない中世山林寺院の様相を明らかにできる成果を得つつあります。

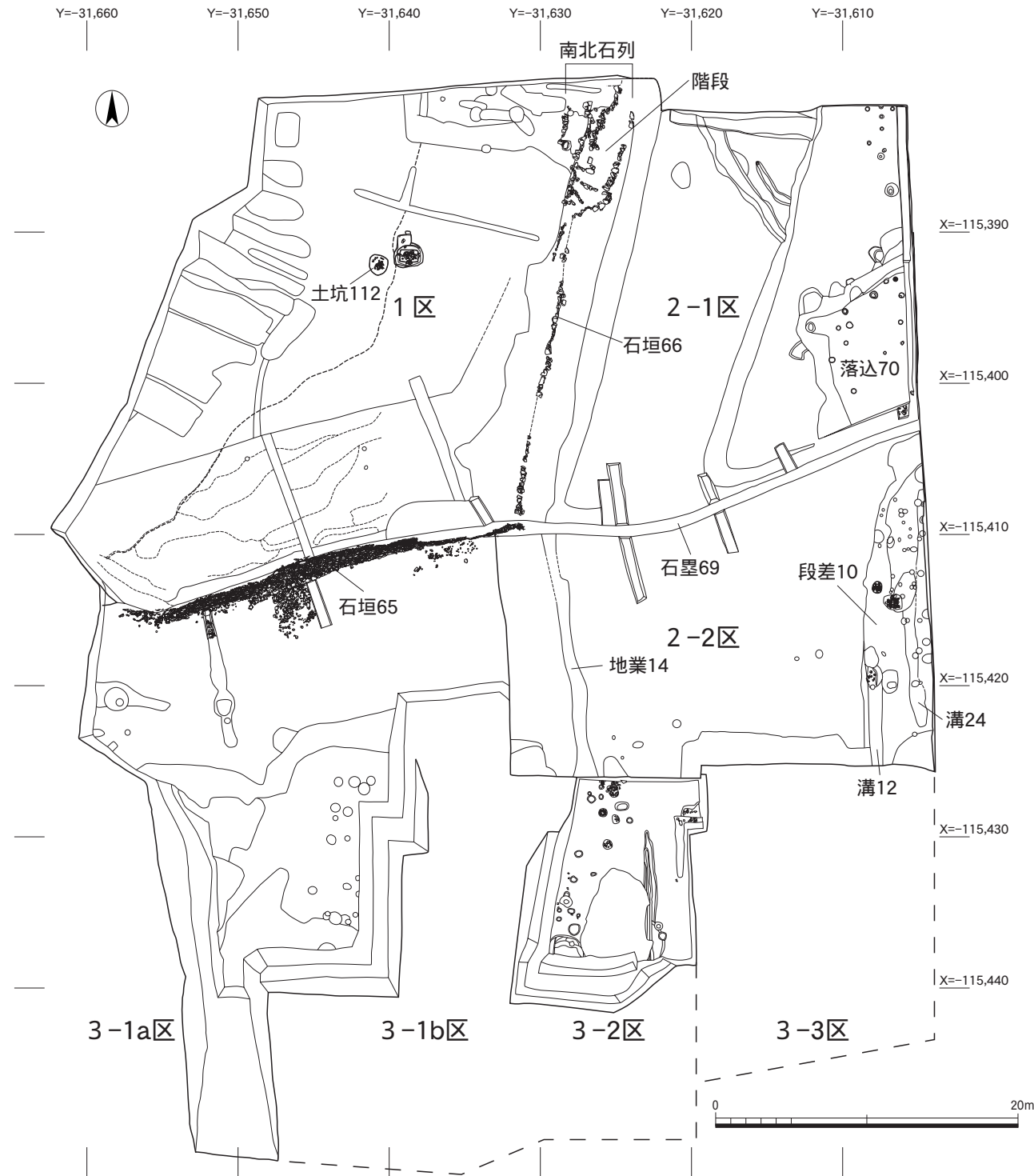


図1 調査区平面略図(1:400)

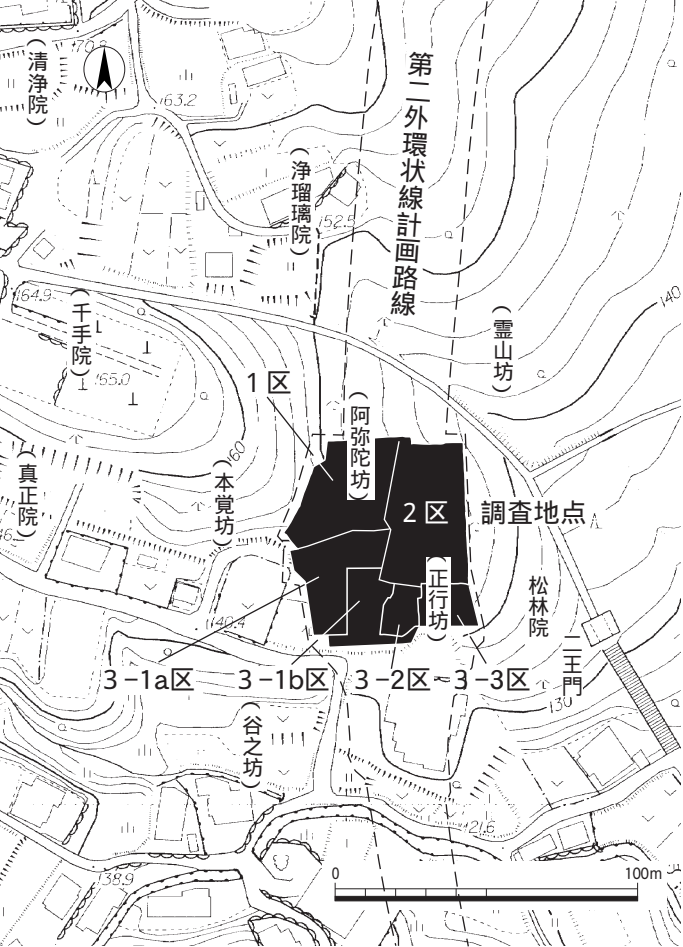


図2 今回の発掘調査区と勝持寺子院推定図
(1 : 2,500)



図3 勝持寺子院の模式図
(山城国乙訓郡小塩山勝持寺境内之図から一部を引用)



図5 2区全景(石垣65・石罫69・地業 南東から)



図4 1区全景(東面石垣66、中央には鎌倉時代の土坑、右端は階段部分 東から)



図6 2区全景(石罫・落込70・段差10 北西から)



図7 2-1区(石罫近景 東から)